自称・霊能者

小林とまりかは心霊イベントに出演するが、全身をアルミで覆った堀光男という名の自称・霊能者が現れ、まりかの身に危険が迫っていると予言する。
小林が堀の家を訪ねると、「呪い電波」「霊体ミミズ」を警告するビラとアルミで家全体が覆われていた。
小林は、狂っているかのように聞こえる堀の言葉の中に、真相を解く鍵があることを確信する。

鬼祭

「かぐたば」という謎の言葉を追った小林は、下鹿毛村という1978年にダムに沈んだ村で行われていた奇祭「鬼祭」にたどり着く。
「鬼祭」は、「かぐたば」と呼ばれる鬼を鎮める祭りで、数百年にわたって行われてきたという。
小林は、1978年の最後の祭りを記録したフィルムを入手するが、そこには「かぐたば」役を演じた娘が突然錯乱し、祭りが中断される様子が写っていた。
そして、そのかぐたば役を演じた娘こそが、「赤ちゃんの泣き声」の取材で遭遇した異様な女性・石井潤子だったのである。

そして、

一連の呪われた現象には石井潤子と「かぐたば」が関係していると推測した小林は、真実を知るために、堀とまりかを連れて、石井潤子が転居した三日石集落へ向かう。
そこは、ダムに沈んだ下鹿毛村の住人たちが移り住んだ集落だった。
そこで三人は、想像を絶する恐怖の一夜を体験する。
そして、石井潤子は首吊り死体で発見され、その脇で加奈の死体も発見された。呪いは終わったかのように思えた。

しかし、

小林は大きな誤解をしていた。
真実はさらに忌まわしく、さらにおぞましいものであった。
失踪した小林からビデオテープが届く。
そこには、「かぐたば」の正体が捉えられていた・・・。